

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	有田町立有田小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 校長のリーダーシップのもと「有田好き 進んで学ぶ さわやか有田っ子」を合い言葉に、全職員が一丸となって学校目標を実現させるために全力で取り組んできた。教材研究、指導案作成、模擬授業、授業研究会と全職員で授業作りを行い、指導力向上につなげることができた。 保護者・PTA、地域との連携は、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、参集型やリモートで行ってきた。学校評価保護者アンケートにおいても肯定的に評価していただいた。来年度は、更に保護者やPTA、地域等と連携を深められるような取り組みを行ってきたい。 「子どもを知る会」を毎週水曜日に実施し、全職員で「気になる子」への支援を共通理解することができた。児童理解や児童支援となり、職員のスキルアップにつながっている。学校や児童に関わる危機の未然防止、早期発見のための貴重な会議となっているので続けていきたい。 今年度は、感染症対策としてリモートでの集会や授業参観、双方向性のリモート授業などを行ってきた。一人一台の端末が整備されたことや、通信環境が整いつつあることから、更にICTの利活用を進めていきたい。
2 学校教育目標	ふるさとを愛し、自ら学び、たくましく生きる児童の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 個に応じた学力向上を目指し、主体的で対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図る。個別最適な学びや協働的な学びを進めていくためにICT利活用教育を推進していく。 ② 特別支援教育を充実させ、気になる子への支援を全職員で組織的・継続的にやり、中学校と連携していく。 ③ 地域と連携した教育を推進し、児童が郷土を愛し誇りに思う心情を育て、活躍したり披露したりする場を設ける。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価				主な担当者	
(1) 共通評価項目										
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・授業づくりのステップ1. 2. 3を意識した授業作りを行う。	A	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師は100%。 ・授業づくりのステップ1・2・3を意識した授業づくりを行っている教師も100%。					研究主任 学力向上対策コーディネーター
	○児童が協働的に学ぶ授業改善	○全学級で授業研究会を実施する。 ○「課題解決のために自分から進んで考えて授業に取り組んでいる」と回答する児童を90%以上にする。	・自分の考えを広げ深めさせるための「話し合う活動」を効果的に位置づけた授業を行う。 ・全職員が、全学級の模擬授業に関わり、共通理解のもと授業研究会を行う。	A	・年間計画通り、10月末までに4学級の授業研究会が終了した。残り2学級の研究授業も12月末までに実施する予定。毎回模擬授業を行い、全職員共通理解のもと授業改善に取り組んでいる。					研究主任 学力向上対策コーディネーター 学習部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友達を大事にして、仲良く過ごすことができた」と考える児童の割合を90%以上にする。	・ふれあい道徳などの公開授業やふれあい活動(縦割り班活動)の中で、思いやりの心や感謝の気持ちを育てる。	A	・本校は小規模であり、縦のつながり(1~6年生)が強く、日々の学校生活や行事等では、お互いを思いやり協力ができている。 ・ふれあい道徳は、11月6日実施予定である。					道徳教育推進教員 人権・同和教育担当 特活・生活部 教育相談担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○人権・同和教育、道徳教育を充実し、「いじめ防止に努めた」と考える教職員を90%以上にする。	・Q-Uや毎週の「子供を知る会」等で、児童理解に努める。 ・個人面談を行い、一人一人の児童と担任等との対話を積極的に行う。	A	・毎週水曜日の「子どもを知る会」で、職員の共通理解を図り、児童理解や問題の早期発見、解決に努めている。 ・Q-Uの研修会を行い、どのように分析し児童理解に活用すればよいかを学んだ。12月に2回目の研修を行う予定。					道徳教育推進教員 人権・同和教育担当 特活・生活部 教育相談担当
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上にする。	・週に1度、昼休みにクラスで遊ぶ日を設定する。 ・休み時間や昼休みに、スポーツチャレンジや持久走、なわとびに取り組む。 ・昼休みに外遊びを奨励する。	B	・天気が良いにもかかわらず、室内で過ごしている児童が多く見受けられるので、今後は外遊びを放送等で呼び掛ける。 ・これから、スポーツチャレンジや持久走、縄跳び等のスポーツを奨励していく。					保体部
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○児童の交通事故をゼロにする。	・1学期に交通教室、学期始めに集団登校、毎月1回集団下校を行う。 ・登校時の確認、通学路の点検を防犯ふれあい隊と連携し、見守り活動を推進する。	A	・交通教室や集団下校時に安全指導を行っている。児童の交通事故は0である。 ・通学路の危険箇所などをふれあい隊と共有しながら見守ることができた。					生活部 安全教育担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・会議時間の縮減に努める。 ・出勤システムで、職員の時間外勤務を把握する。 ・平日は、18時30分までに退勤するよう促す。	B	・職員会議は、2ヶ月に1度計画されているが、急を要する会議が増えているため、会議に使っている時間は増えている。 ・職員の時間外勤務は月に約26時間で昨年より減っている。 ・全職員が18時30分までに退勤するのは週2日程である。					管理職
	○定時退勤日の設定	○定時退勤できたと考える職員を80%以上にする。	・定時退勤日(水曜)を設定し、定時に帰るように呼びかける。 ・水曜日とともに金曜日も定時に帰るように呼びかける。	B	・水曜日は、会議等のため職員が自分の仕事に取りかかる時間が遅くなるため、定時退勤より遅くになってしまう。会議の内容や時間等を考え、話し合いを分散させたい。 ・金曜日は、定時退勤を心がける職員が増えてきている。					管理職
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の推進	○全職員による共通理解と組織的支援	○「支援を要する児童への対応の仕方の理解が深まった」と考える教職員90%以上	・特別支援教育に関わる研修を年5回以上行い、専門的知識を深める。 ・毎週「子どもを知る会」を実施し、支援についての共通理解を図る。	A	・毎週水曜日「子どもを知る会」を実施し、児童支援の共通理解ができた。 ・スクールカウンセラーを講師に、発達障害の児童理解と対応の仕方を深める職員研修を実施した。					特別支援コーディネーター
○地域と連携した教育活動の推進	◎地域の人材や、教育資源を活用した体験活動の充実	○「学校は保護者・地域と連携しながら教育を行っている」と考える保護者90%以上	・世界に誇れる有田焼をはじめ、地域の歴史・文化等、地域の人的・物的教育資源を活用した学習を年間を通して計画的に行う。	A	・やきもの教室や風鈴の絵付け、音楽やクラブ活動の指導、大掃除の手伝い等、地域の人材を活かした活動ができている。					教頭 指導教諭
○落ち着いた生活態度の育成	○全児童が落ち着いて生活できる静かな環境づくり	○「あいさつ、静かな廊下歩行、無言掃除などができた」という児童が80%以上にする。	・「有田っ子プライド」(月目標)を全職員で共通理解を図り、指導を徹底する。	B	・全校朝会や、集団下校時に継続して安全指導を続けている。有田っ子プライドに全クラスで取り組んでいる。 ・無言掃除の指導の徹底が必要。					生徒指導担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--